

■(冷泉)京極為兼 歌人、政治家。斬新奔放な歌風で“京極派”形成も、政争当事者となって貶められ、近年再評価。

きょうごくためかね  
宋船制限・・・1254＝

藤原道長の子から出発しながら零落一途を辿るも、藤原俊成によって和歌で主流となった御子左家の定家の孫ながら三家に分立した一人京極家為教の嫡男に生まれる。母は三善雅衡の娘。

北条時頼出家1256＝ 2歳：

・・・・・・1258＝ 4歳：従五位上。  
二統分化の因1259＝ 5歳：侍従に任じられる。

北条時頼没・1263＝ 9歳：

・・・・・・1267＝13歳：正五位下。

北条時宗執権1268＝14歳：右少将に任じられる。

・・・・・・1270＝16歳：従四位下。この頃、祖父為家の中院山荘に同宿し、歌学の習礼を受ける。

後嵯峨上皇没1272＝18歳：姉為子と共に嵯峨に同宿し、三代集の伝授を受け、和歌について問答。

元寇文永の役1274＝20歳：大僧正道玄嵯峨を訪れ雪の歌会に同席し、祖父為家の歌を代筆。  
元使斬殺・・・1275＝21歳：従四位上、左近少将。この年、祖父為家が死去し、父子とも苦難の道が始まる。  
・・・・・・1276＝22歳：龜山院仙洞で初めて和歌会に列席。五首歌合に参加し、詠歌が「新後撰集」に入る。

元が交易許可1278＝24歳：正四位下、土佐介兼任後、左中将。龜山上皇に百首献上(弘安百首)。「統拾遺集」に初の勅撰入撰。  
無学祖元来日1279＝25歳：以降、上皇への供奉・奉仕続く。父が死去。関東下向の阿仏尼と歌の贈答。この頃、東宮熙仁に出仕。  
異国降伏祈祷1280＝26歳：病床に伏し、僧良季の祈祷加持を受ける。内裏五首歌に参列。東宮坊の雪見に参加。

元寇弘安の役1281＝27歳：

日蓮没・・・1282＝28歳：春日神木の帰座に供奉。

沙石集・・・1283＝29歳：籠居中、東宮から歌を賜わる。内裏観月歌会に列席。

北条時宗没・1284＝30歳：龜山仙洞での観菊歌会に参列。以降、朝廷諸行事での奉行続く。

霜月騒動・・・1285＝31歳：准后九十賀に賀歌を詠ずる。また二条為道と蹴鞠競技。龜山院に三十首献上。

・・・・・・1286＝32歳：東宮熙仁の啄木秘曲伝受に奉仕。

・・・・・・1287＝33歳：東宮熙仁が踐祚して伏見天皇となり、以降、天皇の行幸等に供奉続く。

・・・・・・1288＝34歳：\*即位関連一連の行事に奉仕し、永福門院入内の御書勅使となる。藏人頭に拔擢される。

久明親王将軍1289＝35歳：この年、為頼の禁中乱入の大事件で院政停止。従三位。参議に昇進。天皇が日記で為兼の勤務を激賞。

・・・・・・1290＝36歳：兼讃岐権守。内裏歌会参列し下講師を勤める。兼右兵衛督から兼右衛門督。正三位。

・・・・・・1291＝37歳：関東に下向し、僧善空の朝政介入に幕府に善処を申入れ解決し、天皇親政確立。権中納言に昇る。

・・・・・・1292＝38歳：山門と南都の紛議の事実上の伝奏として周旋し、山門神輿入京。天皇と夢見のことを語り合う。東大寺寺訴につき別当と問答。従二位。この年、北条貞時勸進の三島社十首歌で「郭公」を詠む。

平禅門の乱・1293＝39歳：将軍久明親王奉献の馬を下賜される。三條実躬の日記に「諸人(為兼に)帰伏す」と書かれる。勅使となり伊勢参宮。永仁勅撰の議で、為世・雅有・隆博らと撰者に任せられる。

・・・・・・1294＝40歳：正二位。勸解由小路兼仲も'(為兼の)権勢尤も然るべきか'と日記に書き、藏人頭任官を逸した実躬が為兼の所為なりと日記に憤懣をもらす。この年、龜山上皇に五十首歌を召さる。

・・・・・・1295＝41歳：三條実躬が藏人頭任官を懇願に訪れる。為兼の詠歌を排撃する「野守鏡」も成立。南都騒擾の事由を奏上、

・・・・・・1296＝42歳：遂に、\*権中納言を辞して籠居、

永仁徳政令・1297＝43歳：この年、持明院殿の当座歌合で判者を勤める。

・・・・・・1298＝44歳：南都闘乱の咎で、六波羅に拘引され、佐渡配流となる。寺泊で風待ちの際に遊女初君と和歌の贈答。

一山一寧来日1299＝45歳：佐渡在島中の体験で歌境が飛躍的に深化、

・・・・・・1303＝46歳：\*佐渡から召還され、持明院仙洞五十番歌合に参加。佐渡で詠んだ鹿百首を春日社に奉納。勅撰奏覧前日、万里小路仙洞に参り抗議し、北山第に「新後撰集」について申立て。両上皇に古今伝授。

・・・・・・1304＝47歳：後深草上皇崩御に続いて、

・・・・・・1305＝48歳：龜山上皇も崩御、両院追悼歌を詠み、伏見天皇に献上。

將軍追放入替1308＝51歳：花園天皇踐祚で以降、一連の行事に参仕。

・・・・・・1309＝52歳：この年、永仁勅撰の再集の議がおこり、

・・・・・・1310＝53歳：為世の子為藤が京極邸を訪れ、和歌史上稀に見る論争“延慶の訴陳”始まる。為世が三訴状を呈出したのに対し、三陳状を呈出。権大納言に昇る。この年、関東に下向し、他阿真教に謁して念仏往生につき問答。

・・・・・・1311＝54歳：勅撰集独撰の院宣下る。西園寺公衡の出家に詠歌。権大納言を辞す。

・・・・・・1312＝55歳：伏見上皇御領処分で為兼を越前和田庄院追善料所の代官とする。「玉葉和歌集」完成し奏覧。

・・・・・・1313＝56歳：関東より帰洛。院使として高野山に登山。発病し天皇から見舞い。伏見上皇の出家に殉じて出家。

・・・・・・1315＝57歳：\*御子左一門を率い春日社参。蹴鞠・延年の会の出仕に、驕慢僧上の噂広まり、六波羅に拘引される。

北条高時執権1316＝58歳：土佐配流となり、直前に和歌文書九十余合を天皇に預託する。

後醍醐天皇・1318＝60歳：この頃、安芸に移るか？

・・・・・・1319＝61歳：この頃、和泉に移るか？西園寺実兼に書状を発して先日の来訪を謝す。

後醍醐親政始1321＝63歳：

・・・・・・1330＝72歳：

元弘の変・1331＝73歳：この年、花園上皇が為基を和泉の配所に派遣してきて、御製の評を請われ、合点を付し返却後、

・・・・・・1332＝74歳：河内の配所で、没した。